



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



広報

まつざき

2016
(平成28年)

2
No.621

祝第68回松崎町成人式



1月10日(日)

第68回成人式

祝

第

68

回

松崎町

成人式

式

はたちの門出、67人が大人の仲間入り

1月10日、第68回松崎町成人式が、環境センター文化ホールで開催されました。

今年新たに大人の仲間入りをした松崎町の新成人は67人（男性33人、女性34人）、うち55人が出席しました。

式は「式典」と「はたち祭」の2部構成で行われ、新成人たちは多くの関係者に見守られながら、「成人」として新たな一歩を踏み出しました。

式典では、新成人を代表して、平野祐貴さん（桜田）と佐藤みづきさん（八木山）が、「松崎町民として生まれ育ったことを誇りに持ち、自らの手で、力強く、明るい未来への道を切り開いていくことをここに誓います」と力強く宣誓しました。

はたち祭では、ふるさとクイズや伊豆松崎牛原太鼓の演奏が行われ、新成人の門出を祝いました。

【問合せ】

教育委員会（42） 3971

新成人が誕生した20年前

九州自動車道が全線開通し、青森と鹿児島・宮崎間が高速道路によって結ばれました。野球界では、アメリカのメジャーリーグでドジャースの野茂英雄投手が新人賞を受賞する等の出来事がありました。

また、松崎町が町村合併40周年を迎えた年でもありました。



宣誓をした平野さんと佐藤さん



君が代の伴奏をした佐藤さん（東区）



会場のあちこちで記念撮影



ふるさとクイズに挑戦



受付は中学生ボランティアが担当



伊豆松崎牛原太鼓の演奏



まっちゃんも新成人を祝福

防火・防災の誓い新たに

松崎町消防団出初式

1月4日、新春恒例の松崎町消防団出初式が松崎小学校グラウンドで行われ、消防団員190人が参加しました。

式典では、山本団長が、「地域住民の生命・身体・財産を災害から守るという消防団に課せられた本来の使命を改めてかみしめながら、消防団一丸となって活動強化に取り組みたい」と訓示を述べ、地域防災への誓いを新たにしました。



団旗に敬礼する団員ら



操法を披露する第5分団

その他、永年にわたって消防防災活動に貢献している団員や家族に対する表彰、消防活動協力者への町長感謝状贈呈、昨年の賀茂支部消防操法大会に出場した第2分団第1小隊と第5分団の操法披露を行いました。

式典終了後には、ラッパ隊を先頭に消防団員、消防車両19台による町内パレードと那賀川で一斉放水が行われました。

表彰

(敬称略)

静岡県消防協会長表彰

特別功績章(30年勤続功労章)

5-1 副分団長 稲葉清彦

功績章(25年勤続功労章)

6-2 団員 高橋敦司

特別功績章(20年勤続功労章)

1-1 団員 松原弘之

1-3 団員 山本邦博

3-2 団員 船津一成

4-1 団員 山本健治

5分団 分団長 山本達雄

5-4 部 長 後藤英人

6-2 副分団長 松本晃

6-3 団員 稲葉忍

功労章(15年勤続功労章)

本部 副団長 稲葉豊一

本部 部 長 奥村篤義

本部 部 長 青木一美

本部 部 長 松本祐之

1-1 団員 深澤準弥

2分団 分団長 齋藤克敏

3-3 団員 細田紘幸

4-2 副分団長 鈴木宏城

10年勤続功労章

1-1 団員 光岡雅浩

1-1 団員 佐藤友哉

1-3 部 長 稲葉智浩

2-1 団員 藤井貴啓

5-1 班 長 稲葉務

静岡県消防協会賀茂支部長表彰

功労章

1-3 副分団長 渡辺満

1-3 部 長 稲葉智浩

西伊豆消防団連合会長表彰

功労章

1-1 班 長 山本幸之助

1-1 班 長 小嶋敦人

1-3 班 長 佐藤良太

2-1 班 長 八木直紀

2-2 班 長 関剛

7年勤続功労章

1-1 班 長 小嶋敦人

2-1 班 長 高橋京介

2-1 班 長 小鹿元希

2-2 班 長 関剛

2-2 班 長 清水里司

3-1 班 長 関大輔

3-2 班 長 石田和也

3-2 班 長 佐藤勇気



表彰を受ける稲葉副分団長

松崎町消防団長表彰

善行章

1-3 団員 金子知樹

2-1 団員 関隆治

2-1 団員 坂本健

5-1 班 長 佐藤信一

町長感謝状

消防活動協力者

関 雅人様

関 優斗様



那賀川での一斉放水

【問合せ】

総務課(42) 3963

牛原山のこれからを考える

里山ファクトリーを開催

町では、牛原山を有効利用するための整備計画を策定することとしました。策定にあたっては、「里山ファクトリー」と題した町民の皆様を交えてのワークショップを開いて意見交換を行い、出された意見をこれから策定する整備計画に反映していく予定です。

牛原山の現状

昭和59年、牛原山は町のシンボルとして整備されました。手軽に行ける自然公園として多くの人が訪れましたが、少子高齢化等の影響により、年々その足は遠のいています。公園整備は行政だけでなく、



アスレチックが撤去された牛原山



山崎亮教授による講演会



牛原山の使い方についての意見交換会



出た意見を図にまとめるグループワーク

町民の皆様との協働で行うことが必要です。牛原山を今一度町のシンボルとして再整備するため、町民の皆様と一緒に整備計画を策定します。

牛原山の使い方を考える 講演会と意見交換会

平成27年12月15日、里山ファクトリー町民ワークショップの開催に先立ち、コミュニケーションデザインの専門家東北芸術工科大学の山崎亮教授による講演会、町民の皆様と役場若手職員との意見交換会を開催しました。

町民参加のワークショップ

企画観光課（42） 3964

【問合せ】

1月21日、里山ファクトリー第1回町民ワークショップを開催しました。町民の皆様や役場若手職員等約60人が参加し、松崎町のいいところや自慢について意見を出し合い、図にまとめるグループワークを行いました。

次回は2月18日（木）の開催予定です。今回の内容を踏まえ、牛原山でできそうなことについてワークショップを行います。

里山ファクトリー町民ワークショップは今後も順次開催します。牛原山を町民の皆様が集い、楽しい活動ができる場所にするため、そして町外からも多くの人が訪れるような場所にするため、整備計画の策定を進めていきます。

人と人とのふれあいの場の創出を目指し

シェアオフィスを整備

町では、「日本で最も美しい村」連合の企業会員の富士ゼロックスと連携して、空き家を活用したシェアオフィス事業に乗り出しました。町内の空き家を改装し、インターネット環境を整備したシェアオフィスとして業務や職員研修に使用してもらうとともに、町民も気軽に利用できる場所とすることで、空き家対策や町の

策やアプリを使った観光案内等、さまざまな意見が発表されました。

【問合せ】

企画観光課（42） 3964

にぎわいづくりを図ります。

空き家の改装は1月下旬に着手、3月中旬に完成し、来年度から利用開始の予定です。

また、シェアオフィス事業の一環で、昨年11月14日と15日には、伊豆文郎にて、最新機器を用いて町の魅力の発信手段を新たな視点で考えるグループワークを行いました。

シェアオフィスとしてオープンした際に町外から人を呼び込むためのイベントとして開催し、富士ゼロックス社員や映像制作関係者、大学生等町内外から約40人が参加し、ドローンを使ったイノシシ対



町の魅力の発信手段を発表するグループワークの参加者



シェアオフィスとして改装を予定している空き家（旧石井豆腐屋）

県内の町で初めて 常葉大学と包括連携協定締結

平成27年10月13日、町と常葉大学は包括連携協定を締結しました。かねてから、常葉大学が石部棚田の保全に深く関わりがあったことから、この度の包括連携協定の締結に至りました。

この目的を達成するため、町と常葉大学は、「日本で最も美しい村」(のまち)づくり、地域産業の活性化、環境の保全と共生等7つの分野にて連携・協力していきます。

平成27年12月18日には、第1回目となる連携・協力推進協議会が開催され、今後、町と常葉大学が取り組む事業について協議を行いました。

【問合せ】

企画観光課(42) 3964



常葉大学での協定締結式



第1回連携・協力推進協議会

地方創生戦略策定調査報告④(全11回) 美しい村連合の取り組みについて (長野県大鹿村)

大鹿村は長野県下伊那郡の北部にある村で、南アルプスと伊那山地に挟まれた山間の地域で、諏訪インターから車で80分のところにあります。村内には日本最大級の断層である中央構造線が南北に通っています。また、塩の温泉が湧出しており、海から遠く離れていますが、古くから製塩が行われていました。大鹿村は美しい村連合が発足した時に加盟しており、人口は約1060人、世帯数は約500世帯の村です。

研修では、美しい村の推進体制や活動内容、プチ移住ツアー等の取り組みについて説明を受けました。

日本で最も美しい村づくりの推進体制や活動内容

大鹿村美しい推進本部を組織し、住民、学校、民間事業所、ボランティア団体等を含む全村体制で推進しており、

大鹿歌舞伎の保存と伝承、景観保全を中心として取り組んでいました。しかし、大鹿歌舞伎の後継者不足は否めない状況があり、中学生に総合学習として歌舞伎を教えて後継者育成を図ったり、村外の方でも参加できるように門戸を開放し継承できるように努めていました。

また、景観保全については「大鹿村美しい村づくり条例」を制定し、住民参加型の清掃や植栽活動を通して原風景の保全に力を注いでいました。

プチ移住ツアーへの取り組みと子育て支援

高齢化率が50%を超え人口減少も進んでいる中でイターン者は増加しており、小学生全児童22人の半数以上はイターンの子どもという状況です。村ではプチ移住ツアーを実施していますが、主体はイターン者が組織しているNPO法

人で、1泊2日で年3回実施しており、昨年は5組8名が参加し、1組が定住することになったとのことでした。転入者へは空き家活用の補助を行っており、家財道具の搬出・処理等の費用や空き家改修費等の補助があります。

また、若い世代への子育て支援も充実しており、第3子以降へは30万円を出産祝い金として支給する等しています。

この研修で、町の進むべき方向性をしっかりと打ち出し、住民、学校、民間事業所、ボランティア団体が一致団結して町づくりを進めていくことが重要だということを改めて感じました。

【第4グループ記】



大鹿村交流センターでの視察研修



乗り初め（雲見海岸）

1月2日、雲見海岸では、今年1年の豊漁等を祈願して乗り初めが行われました。海岸に組まれたやぐらからお餅やお菓子が大量にまかれ、多くの行楽客でにぎわいました。



さいの神つくり・どんど焼き

1月上旬、町内各所にて、竹等で組まれたさいの神が作られました。どんど焼きでは、さいの神に正月飾り等を飾り付け、燃やすことによって無病息災等を祈願しました。



人間国宝林駒夫氏が来町

1月8日、桐塑人形作家で人間国宝の林駒夫氏が来町しました。桐塑人形と長八の塑像作品の制作過程に類似点があることに興味を持たれ、伊豆の長八美術館で長八作品を鑑賞されました。



ポンカン品評会

1月18日、環境センターでは、ポンカンの特産品として振興することを目的に品評会が行われました。出品された29点について審査が行われ、斉藤さと子さん（中村）が金賞に輝きました。

町では現在、地方創生へ向けた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定作業が大詰めを迎えています。私は就任当初から、少子高齢化を土台とした平成の花とロマンのふる里づくりとして、松崎町を全町まるごとふる里自然体験学校と位置づけ、グリーンツーリズムの推進、「日本で最も美しい村」連合への加盟等の施策を展開してきました。今回の総合戦略では、これらの施策を融合させ、松崎町版クアオルト構想に挑戦したいと考えています。

クアオルトとは、ドイツ語で「療養地・健康保養地」を指す言葉で、長期滞在型の療養地・健康保養地として親しまれています。日本型のクアオルトは、大分県の旧湯布院町から始まりました。日本の風土や文化、国民

松崎町版クアオルト構想

町長室からこんにちは ⑦4

性に合わせた健康づくりのプログラムや仕組みを提供し、自治体をあげて健康づくりに取り組むことで、観光客の増加だけでなく、地域住民の健康増進にも効果があります。

松崎町は海や山が近く、川や温泉、先人から引き継いだ素晴らしい景観があり、クアオルト構想において大変恵まれた資源を持っています。このクアオルト構想を通じ、町民の皆様が健康で長生きすることは、大変喜ばしいことであると同時に、国民健康保険や介護保険等の財政負担の軽減、観光客数増加による経済効果も見込めます。

今回の挑戦は観光関係者と福祉関係者の連携が不可欠となりますので、ご理解とご協力をお願いします。

松崎町長
齋藤 文彦

お茶の良さを知ってもらいたい――

山本 尚子さん（峰区）

キラリ、輝き人 No.14



日本の伝統あるお茶の文化を広めようと、地区の行事等で茶会を行う山本さん。茶道同好会の仲間と共に参加している岩科重文まつりでは、野点の責任者を務めている。「まつりで野点をするときの装飾は竹を組んだりして趣向を凝らしています。『ここはこうした方がいいんじゃないか』と皆で意見を出し合って、

より多くの皆さんにお茶の文化に触れて楽しんでもらえるよう心掛けています」自身の住む峰区の芸術祭でも茶会を行っている山本さん。「ただ見て終わるのではなく、見に来た人にもてなしが必要ではないか」との思いで始めた茶会は好評だという。

山本さんがお茶を始めて40数年。今まで続けることができたのは、お茶の先生や先輩、仲間たちの支えがあったからこそと強調する。

「重要文化財がある素晴らしい環境に恵まれたこと、先生のお茶に対する精神的な影響があったこと、素晴らしい仲間たちに出会えたこと。この3つがあったから、私はお茶を続けることができました」

貢献まではいかなくても地域にできることをしていきたいと話す山本さん。今後は自宅の庭や家屋を有効利用し、皆でお茶を楽しめるような高齢者の居場所づくりを考えている。

Profile

やまもと しょうこ さん

20年以上にわたり岩科重文まつりの野点の責任者を務めている。最近では自宅の庭のガーデニングに凝っている。



▶ 自宅でお茶をたててふるまうことも

地域交流通信

松本市安曇地区から ナンジャモンジャの木

安曇地区の入り口にある集落、大野田地区の伊勢二ノ宮神社境内にはスギ、ケヤキ等の大木がありますが、その中に他の木とは異なる趣の大木が1本あります。幹の周囲が3・5㍍、高さ20㍍ほどのこの木は、地元の人々に「ナンジャモンジャの木」と呼ばれ親しまれています。

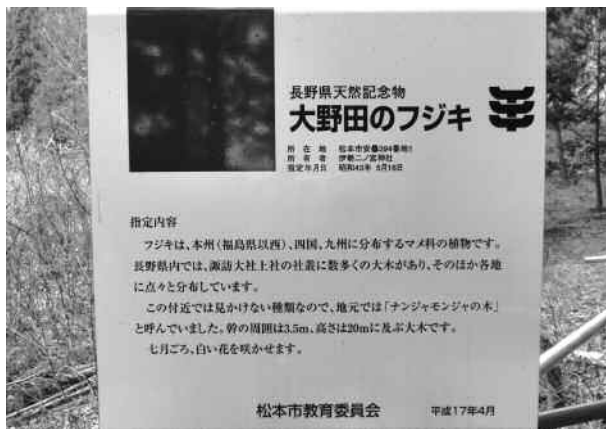
ナンジャモンジャとは植物

の種名ではなく、慣れない立派な植物、怪木や珍木に対して地元の人々が付けた愛称で、この木も地元では珍しいものになります。

この木の正体は、フジキ（藤木）別名ヤマエンジュ（山槐）という木で、国内では主に太平洋側に分布するとされています。この木が安曇にあることが珍しいことから、昭和43年に

長野県天然記念物に指定されました。

また、この木は7月頃に白い花を咲かせます。近年は樹勢が弱ってきたためか、何年かに一度花を咲かせるような状況ですが、花を咲かせた木の姿はとても美しいものです。もし、7月頃に安曇地区に来る機会がありましたら、一度立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



長野県天然記念物のナンジャモンジャの木の看板

ストップ！悪質商法被害！あなたも賢い消費者に！

「マイナンバー制度に便乗した詐欺にご注意を」

マイナンバー制度に関する通知カードの発送が平成27年10月からスタートし、既に皆様のお手元にも届いていると思います。

このマイナンバーについて、自宅に來訪した人間に通知カードの入った封筒ごと持ち去られた、マイナンバーの流し防止のために必要として電子マネーを購入させられたというケース等被害事例が既に発生しています。また、あなたのマイナンバーが流失しているとして不安感を煽るようなメールが届いているかの確認を求める電話があった等の報告もあります。

同制度は開始したばかりの



【問合せ】
(文と絵) 司法書士 山田茂樹
企画観光課 (42) 3964

町の人口と世帯

(平成27年12月31日現在)
()内は前月比

総人口	7,171人	(-8人)
男	3,405人	(-7人)
女	3,766人	(-1人)
世帯数	3,036戸	(-3戸)
転入	12人	転出 5人
出生	1人	死亡 16人

(12月届出分)
戸籍だより



おめでとうございます(出生)

地区	名前	性別	保護者
道部	幸誠	男	高橋幸村

おくやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
櫻田	佐藤梅枝	83	秀雄
池代	石黒百合子	68	邦男
江奈4	高橋百合子	84	和宏
江奈1	菊地敏郎	80	和彦
指川	菊池まさ子	83	栗原忠晃
櫻田	清水芳尚	78	憲司
伏倉	渡邊金彌	90	昌也
池代	鈴木倬	89	辰也
北区	肥田琴枝	90	勇
宮内	黒江哲彌	101	田中紀子
宮内	菅井勝	83	元継
江奈2	稲葉シマ子	93	照雄
明伏	山本ひろ子	92	保重
櫻田	長島秀親	57	善司
池代	齋藤清美	85	花田和佳子

※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

町の交通事故

平成27年12月発生分

()内は前年同月比

人身事故	2件	(+1)
物損事故	19件	(+2)
死者	0人	(±0)
傷者	2人	(+1)

伊豆半島
食の祭典 in 道の駅

松崎町も参画する「美しい伊豆創造センター」と静岡県は、物産展&軽トラ市「伊豆半島食の祭典」を開催します。伊豆半島内の各市町から集まった出店者がブーティスを出し、伊豆地域特産の豊富な食材が会場を彩ります。

皆様もぜひ、「伊豆」を味わいにお越しください。

【日時・会場】

○2月21日(日) 午前10時〜午後3時
道の駅くるら戸田

○3月6日(日) 午前10時〜午後3時
道の駅花の三聖苑伊豆松崎

【問合せ】

美しい伊豆創造センター
0557(35)9321

松崎文芸

— 短歌 —

浄泉寺の湧き水あふるる石垣に
濡れつつ咲きあまるやまほととぎす

岡村芳子

子どもらの作りし灯笼ゆらめきて
山門への道照らしてつづく

細田光代

街頭のティッシュ配りの若者は
渡す相手をひと目で決める

杉山安紀子

紫陽花に似た庭の花(花くされ)
忘れぬやうに切り抜きとどる

土屋君子